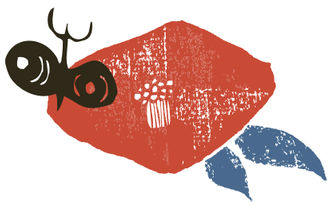
素のままの
美しい暮らしを求めて

素のままの美しい暮らしができる幸福な社会を築くには環境世界を学び、
生活を確かにする価値観をトレーニングする必要があり、
環境教育学はこのための有効な方法論です。
人口が70億人を越え、ピーク・オイルを過ぎ、
地球規模の気候変動に加えて、東日本大震災・大津波という自然災害に引き続き、
原子力発電所崩壊による放射性物質公害という人為災害が深刻化しています。
このような未曾有の環境変化を目の当たりにして、
これまでの過剰な商業主義に流されてきた、
大量生産・消費・廃棄による暮らしぶりを真摯に三省したいと考えます。
過疎・高齢化が著しい被災地域ではすでに将来に向けて
持続可能な地域社会への模索が始まっています。
この提案シンポジウムは東京学芸大学において実践された
三菱UFJ環境財団寄附講義の３年間のまとめ、
環境科カリキュラム研究会、環境教育実践フォーラム、
生物文化多様性研究会などの環境教育研究、および学芸の森環境機構による
環境保全・創造・教育活動の成果を柱にしています。
大量の化石燃料に依存しなくても幸せに暮らせる、
豊かで持続可能な地域社会を築くために、
重要性を増している環境学習の役割、
「環境科」カリキュラムの必要性について提案したいと考えます。
地域社会から世界までも統合して理解できる環境教育学への
新たな提案を多くの方々と話し合い、
人生をしっかりと支える価値観を
学校や地域社会における環境学習実践によって、
再び大地へ、世界へとつなげていきたいと思います。



【プログラム】

8:30
【受付】　セミナーホール 417室

9:00～9:20
【挨拶】
高田滋（東京学芸大学環境教育研究センター長）

【趣旨説明】
「環境科」カリキュラムの構図と
学芸の森環境機構の「環境＋教育」戦略
■木俣美樹男（東京学芸大学学芸の森環境機構長）

9:20～12:00
【環境科カリキュラムの必要性を探る】
座長：鈴木善次（大阪教育大学名誉教授）
　　市川智史（滋賀大学環境総合研究センター准教授）

持続可能な社会の構築につながる環境学習
～学びから行動へ、個人から社会へ
■藤村コノエ（環境文明２１共同代表）

地域に根ざした環境教育のモデル
～新潟県南魚沼における「場の教育」の実践から
■大前純一（エコプラス事務局長）

小学校での環境教育実践
■中込卓男（八王子市立上壱分方小学校教諭）

児童・生徒の生物多様性保全認識の向上のための
学社融合カリキュラム
～韓国（洪城郡洪東面）プルム実践からの学び
■降旗信一（東京農工大学准教授）

環境教育学、次のステップへ
■渡辺隆一（信州大学教授）

12:00～13:00
【昼休み】

12:00～13:30
【ポスターセッション】　415室
「環境＋教育」研究・実践、
GLOBEプログラム、
植物と人々の博物館プロジェクトほかの展示

13:00～17:00
【新たな環境教育学への提案】
座長：安藤聡彦（埼玉大学教授）
　　松葉口玲子（横浜国立大学教授）

東京学芸大学の環境教育のパイオニアワークに
触発されて変貌する私の教育研究
■原子栄一郎（東京学芸大学教授）

地域と連携する大学教育と環境教育指導者養成
■樋口利彦（東京学芸大学教授）

私の学び～自然保護教育からまちづくりまで
■小川潔（東京学芸大学教授）

ジオパークによる自然史教育
■小泉武栄（東京学芸大学教授）

河川環境の学び方、伝え方
■吉冨友恭（東京学芸大学准教授）

農山漁村の生物文化多様性から学ぶ
■木俣美樹男（東京学芸大学教授）

【挨拶】
山本克明（三菱UFJ環境財団理事）

17:30～20:00
【懇親会】D棟9階レストランさくら